

Arcserve UDP 8.x 新機能/拡張機能のご紹介

2022年 9月

Arcserve Japan





Arcserve UDP 8.x の特長

- クラウド機能の拡充
- お客様のバックアップ運用を強化
- セキュリティ・ランサムウェア対策の強化

※ 本資料に掲載されている機能のうち、バージョンが表記されていないものは Arcserve UDP 8.0 での新機能です。







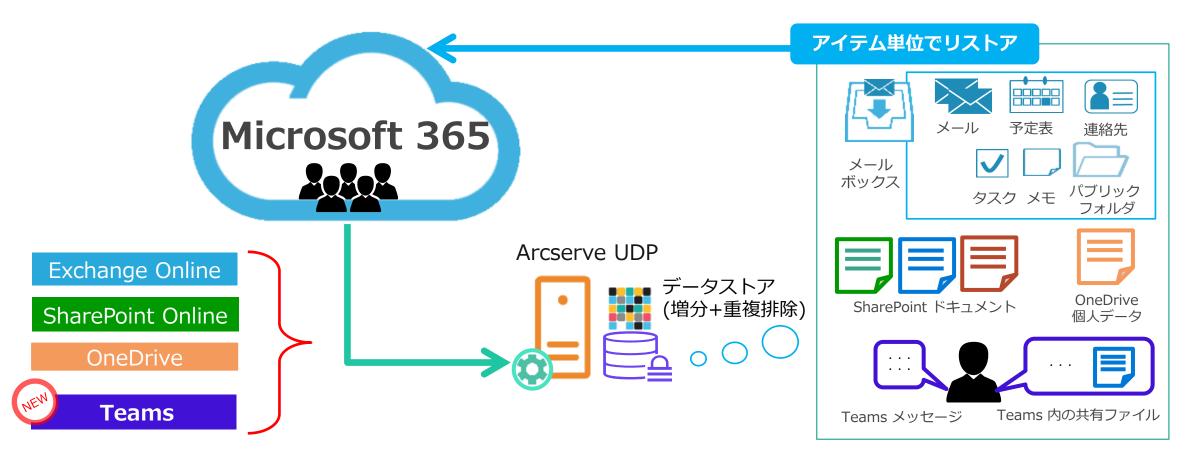




Microsoft 365 Teams のバックアップ



Teams のメッセージやメッセージ内の共有ファイルをバックアップ



Microsoft 365 のサービスをまとめて一括保護が可能に!



参考: Teams メッセージのバックアップ

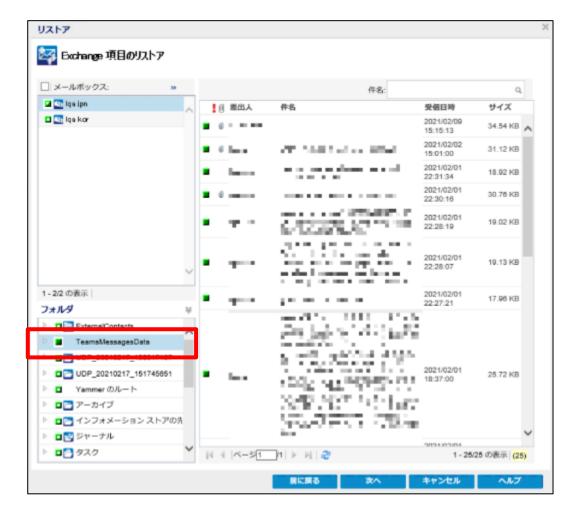
バックアップ対象としてExchange Online のグループ/サブグループ、メールボックスを指定

	クスでパックアップ アカウントが Discovery Managen ドルを参照してください。 ソースのすべてを保護します。		されるメールボックス		
□ ユーザーメールポックス ()			電子メール アドレス	電子メール ユーザ名	メールボックスの種類
ブルーブ			lqaip_msteams@arcservebiz	ワクチン接種チーム	グループメールボック
✓ Microsoft 365 (89)	分布				
□ セキュリティ	□ 電子メール対応のセキュリティ				
かかト名で検索	×				
電子メール アドレス	電子メール ユーザ名 メールボックスの種類				
n •		^			
		»			
		1			
		«			
Barrier -	5-80 (E-2) - 51				
i	* Ball and *1 *	,			



参考: Teams メッセージのリストア

リストアしたいメールボックスの "TeamsMessageData" をリストア









Microsoft 365 バックアップ機能の拡張



Microsoft 365 先進認証対応

- Exchange Online / SharePoint Online / OneDrive のバックアップおよびリストアで先進認証を利用したセキュアな接続が可能
- お客様の環境に合わせ、従来の基本認証での バックアップも対応可能

OneDrive のリストア強化

- ・直接 OneDrive へのリストアが可能に
- ・OneDrive の別の場所へのリストアも可能

SharePoint Online の機能追加

- ・新規追加サイトを自動検出してバックアップ
- ・個人サイトのバックアップに対応
- ・複数サイトの一括バックアップ設定が可能
- ・削除されたサイトの完全復旧に対応
- ・複数サイトのバックアップ時の進捗表示改善
 - ※数千サイトをバックアップする際、メタベースを マルチスレッド処理することでパフォーマンスを改善

グループ単位で効率的にバックアップ設定

- ・配布グループ、会議室メールボックス 備品用メールボックスのバックアップに対応
- ・セキュリティグループ単位でのバックアップ が可能

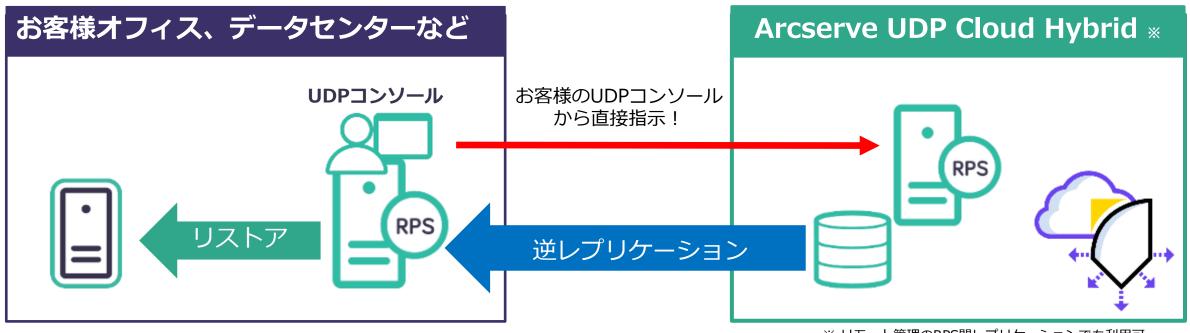
8.1



Arcserve UDP Cloud Hybrid の機能強化



クラウドからの逆レプリケーションで、お客様側のホスト名の提供やポート開放が不要に!!



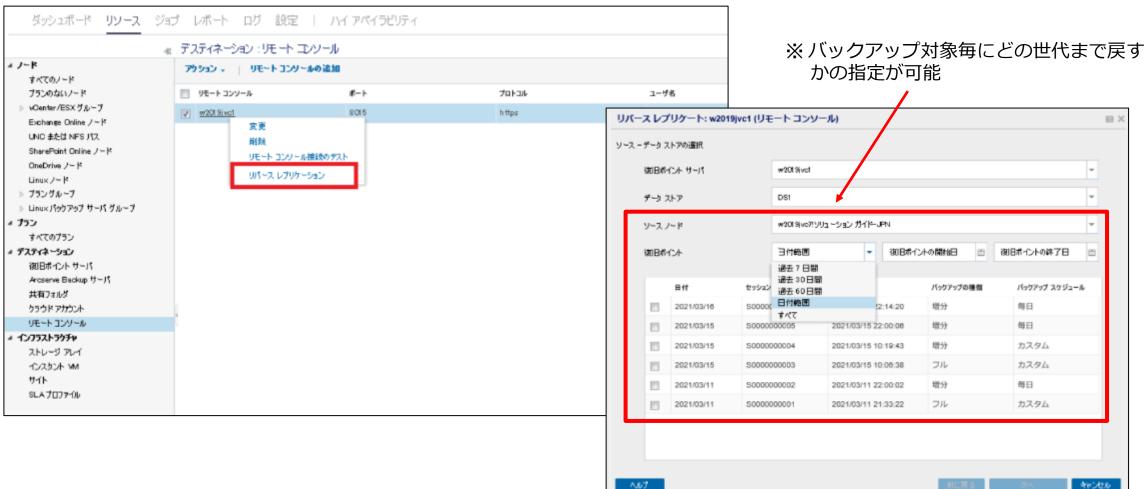
※ リモート管理のRPS間レプリケーションでも利用可

いざという時に必要なバックアップデータの複製が、手間なくいつでも実行可能

arcserve^c

参考: リバース レプリケーションの実行(1)

オンプレミス側のコンソールで操作し、 リモートコンソールからリバース レプリケーションを実施するよう指示





参考: リバース レプリケーションの実行(2)

デスティネーションとしてオンプレミス側のRPS/データストアを指定して設定完了

リバース レプリケート: w2019jv	c1 (リモート コンソール)				$\boxtimes \times$
デスティネ ーション					
復旧ポイント サーバ	w2019jvc7			+	
データ ストア	DSI			~	
ターゲット ノード名	RR,				
復旧ポイントの保存					
● 手動で削除					
○復旧ポイントの削除					
ヘルブ		前に戻る	<i>沈</i> ∧	和外	2#

(ース レプリケート: w2019jvc1	(リモート コンソール)		
防環境設定 アラート設定			
電子メール アラートの有効化	□注: 電子メールの設定を行うには	、設定1>[電子メールとアラートの環境	設定]に移動します。
ジョブ アラート	□ リパース レブリケーション、失敗	/ウラッシュ	
	□ リパース レブリケーション、成功		
リバース レブリケーション ジョブ夫敗戦 再試行開始	10	分後り~	- 60)
再試行開始	10	分後 () ~	- 60)
再試行	3	@ (1~99)	
N07		前に戻る	完了キャン





お客様のバックアップ運用を強化

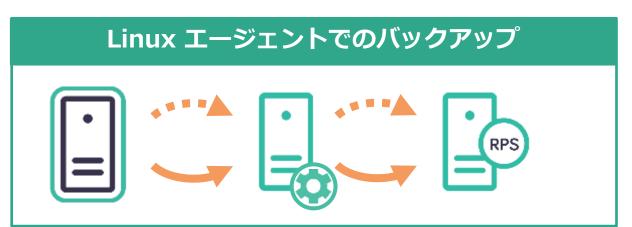




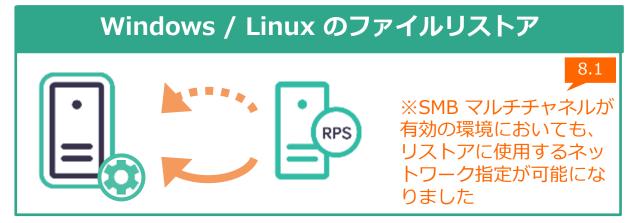


ネットワーク指定の強化

バックアップ以外でも、レプリケートやリストアに使用するネットワークを指定可能に









※ デデュプリケーション機能の有効/無効によって、ネットワーク指定が有効に働かない構成があります。詳細は以下の技術情報をご覧ください。 Windows Agent 又はエージェントレスバックアップ: https://support.arcserve.com/s/article/2021040201?language=ja

Linux Agent ファイルリストア: https://support.arcserve.com/s/article/2021040202?language=ja





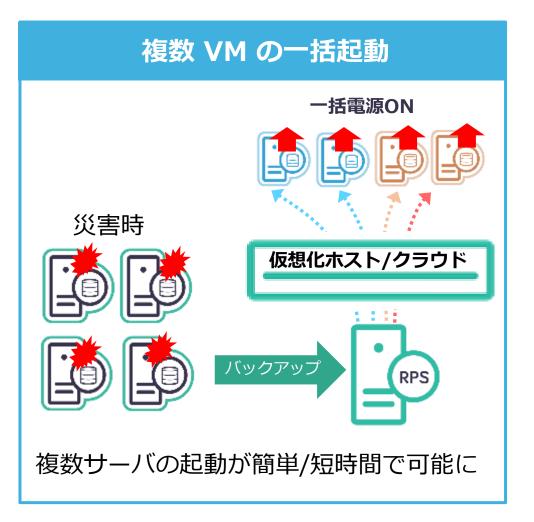
参考: Windows ファイル リストア時のネットワーク指定

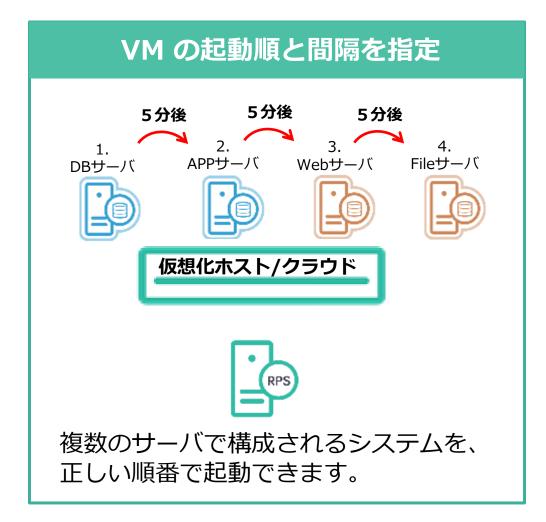






仮想スタンバイ/インスタント VM の機能強化





大規模環境でのスムーズな代替マシンへの切り替えが可能に!

arcserve[®]



参考:インスタントVMのウィザード画面

1つのウィザードで複数サーバのインスタントVMを設定 起動シーケンスの指定や起動トリガ間の遅延指定が可能

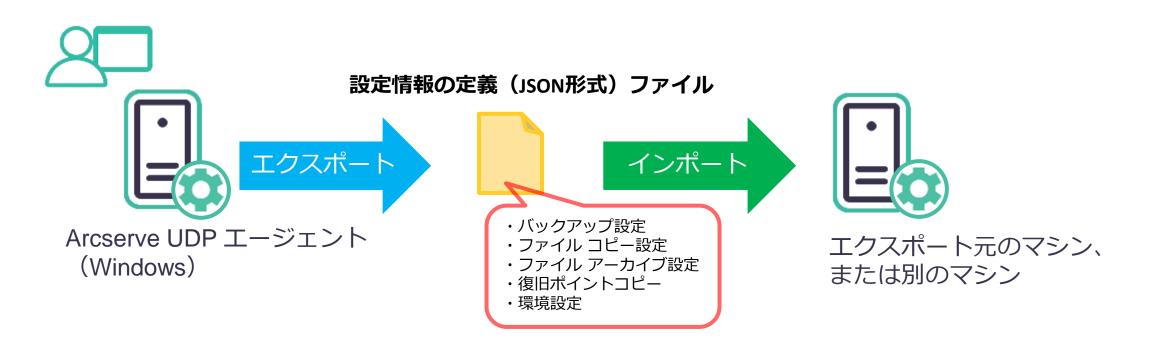






Arcseve UDP エージェント(Windows)設定のエクスポート/インポート

Arcserve UDP エージェント(Windows)の設定を JSON 形式でエクスポート この設定ファイルをインポートすることで、再設定や他のマシンへの移行が容易になります。



同じ構成の複数マシンへの Arcserve UDP エージェント(Windows)の設定が簡単に!

arcserve[®]

<参考> エクスポート/インポートの手順

エクスポートの手順※



- ① エクスポート対象 の設定を選択
- ② 暗号化キーの入力

- ③ [エクスポート]を クリック
- ④ 確認メッセージの[OK]をクリックし、ブラウザ下部の以下の[保存]メニューから任意の場所にファイルを保存



インポートの手順



- エクスポートした ファイルを指定し、 暗号化キーを入力
- ② [アップロード]を クリック
- ③ [利用可能な設定] からインポート したい設定を[選択 した設定]に移動
- ④ [インポート]をクリック

arcserve^c

※ エクスポートした設定は、[設定の保存]を行った後の内容が反映されます。





・CentOS 8.x の BMR の対応強化

- **あらたにユーザ環境に合わせたドライバを含む Live CD を作成可能するためのスクリプトをご用意** ※従来は CentOS 8.x シリーズ用の Live GNOME ISO が提供されていないことから非サポート

・Amazon EC2 へのインスタントVM 対応強化

- インスタント VM の Live CD に ENA (Elastic Network Adapter) ドライバが含まれるようになり、 ENAドライバを必要とする新しいタイプのインスタンスをサポート

・ファイル レベル リストアの対応強化

- 非 root ユーザ利用時、セキュリティ強化等の理由から SUID が使用できない環境においても、代わりに SUDO を利用することでファイル リストアを実行可能に



コマンド運用の強化

Arcserve UDP コンソール / Linux のバックアップ 実行前/実行後コマンド設定の拡張

・バックアップ用のスナップショット作成の失敗時にもコマンド実行が可能になります。万一スナップショットが失敗しても、バックアップ開始前に停止したアプリケーションをバックアップが失敗となる前にすぐにコマンドを実行してアプリケーションを再開できるため安心です。

スナップショット取得後にコマンドを実行		
77777 4X19180C21771 69613	✓	E:¥script¥post−snapshot.bat
		ナップショットが失敗した場合でもコマンドを実行

コマンドライン ユーティリティ(PowerCLI)のログの改善

- ・PowerCLI のログファイル(UDPPowerCLI.log)を24時間表記に変更。
- ・PowerCLI のログファイルのローテーション設定(ファイル サイズや保持期間など)が可能になり、 ログ保存ディレクトリの肥大化を防止できます。



セキュリティ・ランサムウェア対策の強化





8.1

Arcserve UDP 管理のセキュリティ強化

管理画面へのログオン方法として多要素認証(MFA)が利用可能に



パスワード入力に加えて、確認コードの受信/入力を必要とすることで 不正アクセス リスクを低減

arcserve[®]

8.1

123 45

Arcserve UDP 管理のセキュリティ強化

事前準備

多要素認証を有効化し、ワンタイム パスワードの確認方法を設定



方法 1: TOTP(Time-based One-Time Password)

サードパーティの認証アプリ (Microsoft, Google 等) で 読み取ることでアカウントが登録され、以後、時刻 に基づいたワンタイム パスワードの確認が可能に なります

※設定、利用時に Arcserve UDP 環境のインターネット接続は不要です。 モバイル端末と Arcserve UDP 環境は時刻を一致させる必要があります。



方法2: MOTP (Mail-based One-Time Password)

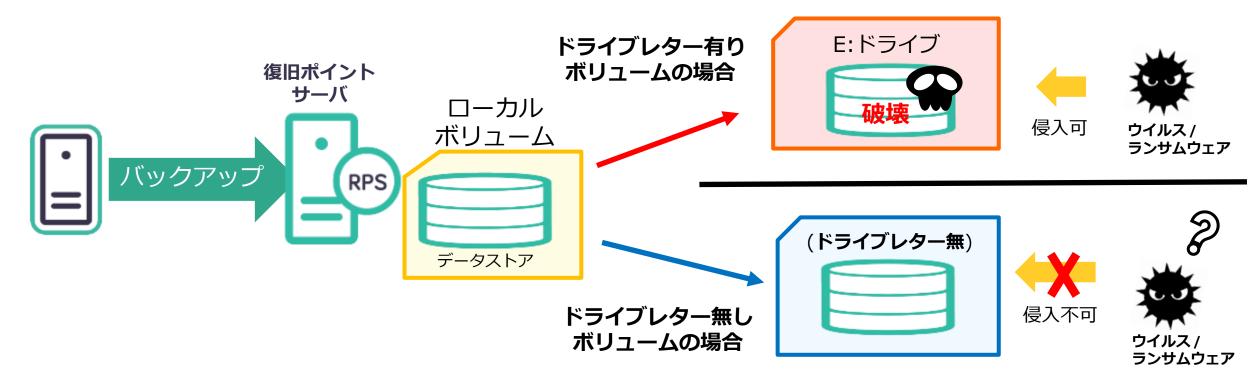
Arcserve UDPコンソールから電子メールで ワンタイム パスワードを送信することが可能です ※利用時に Arcserve UDP 環境とメール サーバとの間で通信が必要になります。





復旧ポイントサーバのセキュリティ強化

復旧ポイントサーバ(RPS)内のエクスプローラーから見えない領域にバックアップデータを保管

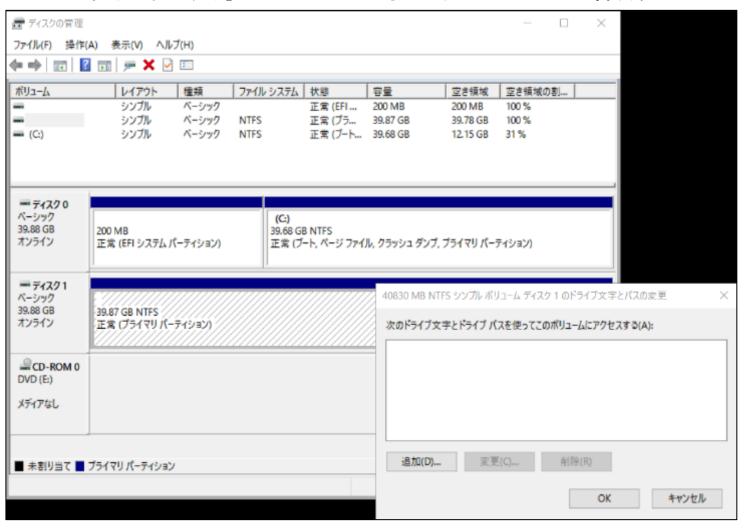


- ※ Arcserve UDP アプライアンスではボリュームの追加や削除は行えないため、本機能はご利用いただけません。
- ※ 本機能を利用する場合、Arcserve Backup との連携機能において一部制約があります。詳細は注意/制限事項をご覧ください。
- ※ ホストベース エージェントレス バックアップにおいて、VMware社の仮想環境上の同一VMに本機能を利用するRPSとバックアップ プロキシを構成してご利用いただくことはできません(参考KB)。



参考:隠しボリュームを使用したRPSデータストア設定(1)

ドライブ文字がついていないボリュームを作成



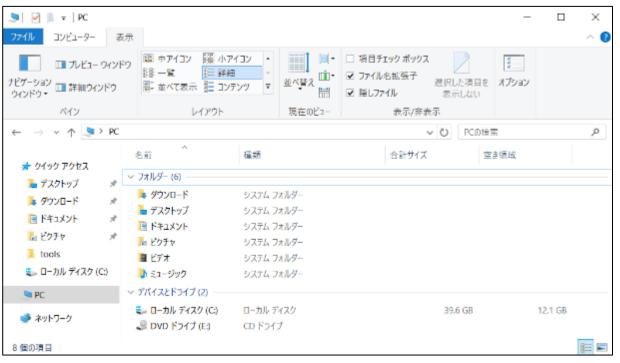




参考:隠しボリュームを使用したRPSデータストア設定(2)

ドライブ文字のないボリュームは、

エクスプローラでのアクセスや単純なパス指定でアクセスができないため、 バックアップ先にすることでウィルスやランサムウェア感染リスクを低減できる



だが、このままではデータストアの作成先として 指定ができない

デデュプリケーSeン、圧縮、暗号化を布	可効化または無効化す	る設定は、データストアの作成後は変更できません。		
御日本のトサーバ	udpravnarosarve.ja		15 u bits a title a war	
データストア名			バックアップ先の選択 フォルの選択	
データストア フォルギ			D ■ CY	
同時アリティブリードの制限	4		l	
■ テデュブリケーションの有効化				
テデュブリケーション ブロック サイズ	16 KB =	all デテュブリケーション all テーブ バッりアップ all リ	Al .	
ハッシュ メモリの割り当て	7790	MB (設大:18382 MB, 銀小:1024 MB)		
□ //yシュデスティネ・5/aン(J SS	D (Gold State Driv	o) 上(())	71J842	
デーカ チュティカーション				

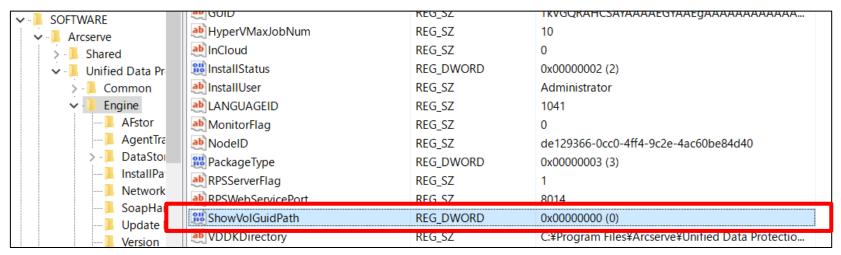




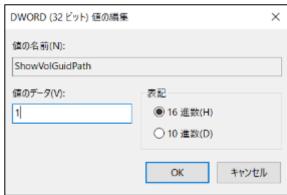
参考:隠しボリュームを使用したRPSデータストア設定(3)

以下のレジストリキーにアクセス

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\ShowVolGuidPath



デフォルト0を1に変更

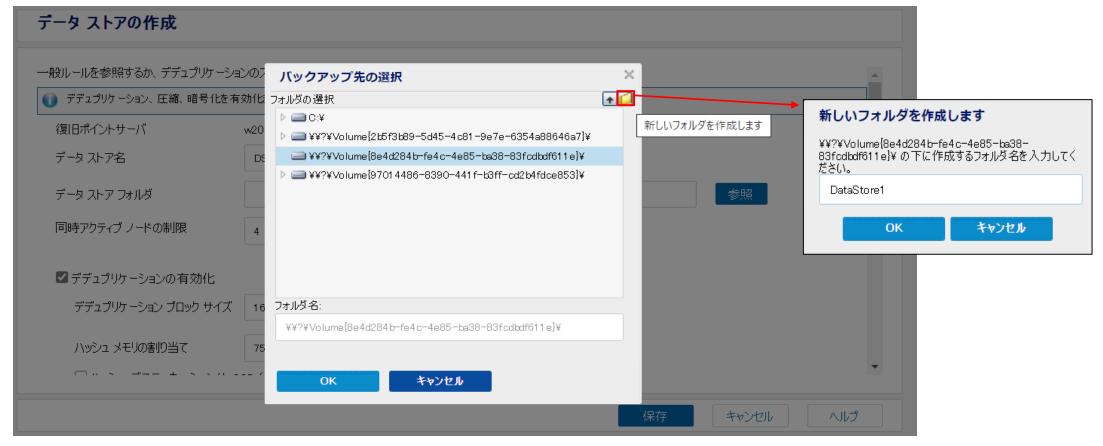






参考:隠しボリュームを使用したRPSデータストア設定(4)

データストアの作成時、非表示ボリュームが見えるようになる 新しいフォルダを作成し、データストアを構成するフォルダとして指定可能

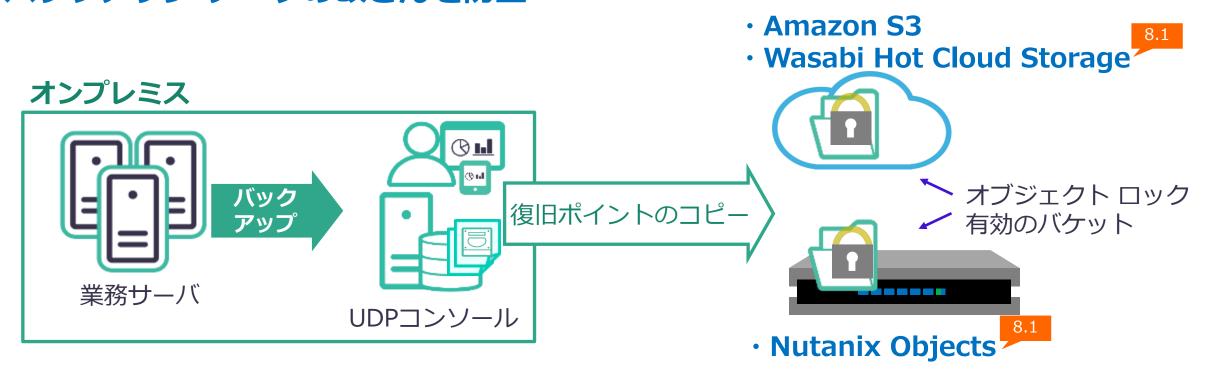






オブジェクトロックへの対応でランサムウェア対策を強化

不変ストレージ(オブジェクト ロック機能)に対応 バックアップ データの改ざんを防止



法規制やコンプライアンス などのデータ保持に利用 ストレージ側の設定で 保持期間後の削除も可能 フルイメージを戻して システム復旧の利用が可

arcserve[®]



参考: Amazon S3 オブジェクトロックの設定

復旧ポイントのコピー タスクの設定内でオブジェクトロックを有効にして、保存モードを指定







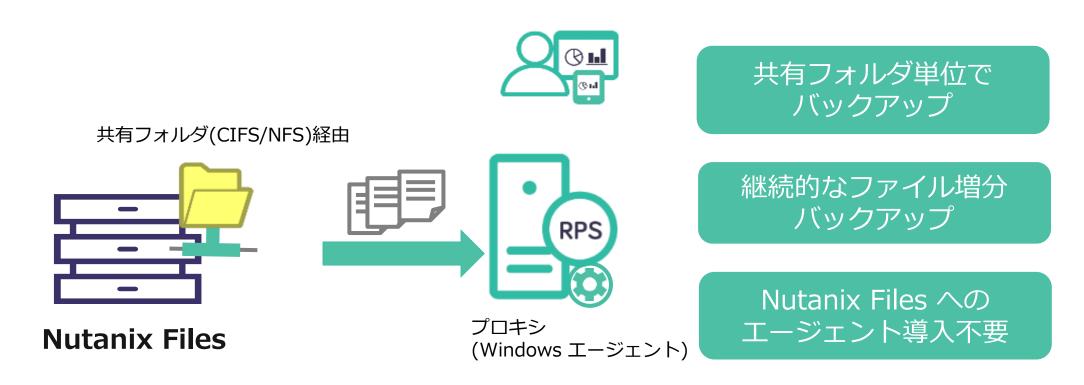
対応環境の拡張と、その他の機能追加





Nutanix Files のバックアップ

バックアップソフトが導入できない Nutanix Files 内のデータをバックアップ



Nutanix Files スナップショットと連携して、高速に増分を検出!





参考: Nutanix Filesバックアップの設定画面

スナップショットプロバイダとして"Nutanix Files"を指定可能

UND または NFS バスを指定また プロトコル	は参照します。 ** ## Server ** などのサーバ名を入力し、そのサーバ上のフォルダを参照します。 ● SMB NFS ** NFS ** NFS ** MMSysFS_Msystest.qa¥share15	
スナップショット プロパイダ	Nutanix Files	
Nutanix Files REST 詳細	0 指定	
ューザ名	test	
パスワード	••••••	
プロトコル	●HTTPS OHTTP	
ボート	9440	





サポート プラットフォームとアプリケーションの追加

OS / プラットフォーム / アプリケーション

- Debian Linux 10.7, 10.8, 10.9, 10.10, 10.11*
- Nutanix AOS 5.15, 5.20
- Nutanix Files 3.7.z, 3.8.z
- ・ KVM 上の Red Hat 8.x / CentOS 8.x / Oracle Linux 8.x
- Suse Enterprise Linux 15 SP2, SP3*
- Red Hat Enterprise Linux 8.4*, 8.5*, 8.6*
- Oracle Linux 8.4, 8.5, 8.6 (UEK R3 ~ R6, x64 のみ) 🧖
- Windows Server IoT 2019 for Storage
- Windows Server 2022*, Windows Server IoT 2022 for Storage*, Windows 11*
- VMware ESXi 7.0 Update 2, Update 3

8.1

* パッチの適用が必要な場合があります。詳しくは動作要件をご覧ください。

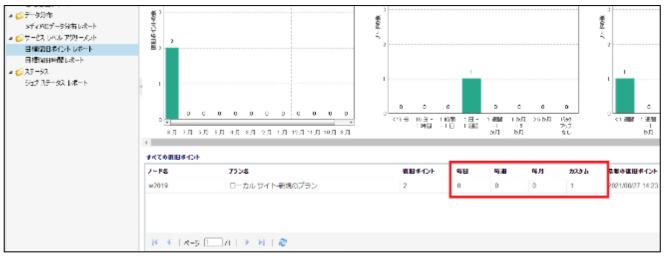


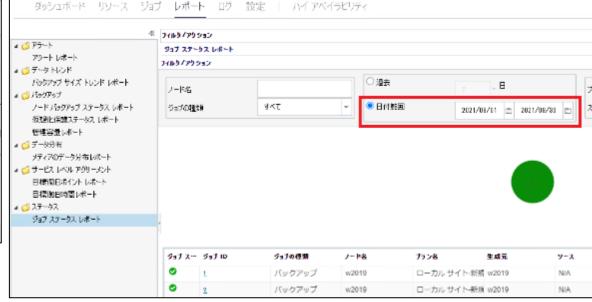


その他の機能強化(1)

・レポート関連

- Exchange 詳細レポートが Microsoft Exchange 2019 cu9,10 と Exchange 2016 cu20 に対応
- 目標復旧ポイント レポートで、日毎/週毎/月毎/カスタムのジョブ毎に復旧ポイント数を表示可能に
- ジョブ ステータス レポートに開始、終了日フィルタを追加







その他の機能強化(2)

- ・RPS データストアの整合性確認ツール(as_gddmgr.exe)の対応強化
- -ドライブ文字を付与しない、GUIDで管理される隠しボリュームを利用するデータストアへの利用が可能に
- ・Microsoft SQL Server 保護の拡張
 - エージェント ベース バックアップで、Filestream のリストアに対応
- ・サードパーティ コンポーネントのアップグレード
 - Arcserve UDP コンソール データベース Microsoft SQL 2014 SP3
 - Apache 2.4.48, Tomcat 9.0.52
 - VDDK 7.0.2
 - OpenSSL 1.1.1k
 - .Net Framework 4.7.2 (Microsoft 365関連)



永続(パーペチュアル)ライセンスに加えて、初期投資の少ないサブスクリプション をご用意

	サーバ単位 (Server) ^{※1}			ソケット単位 (Socket) ^{※1}			
エディション	ライセンス+ 1年 メンテナンス	ライセンス+ 5年 メンテナンス	サブスクリプション ライセンス 1年	ライセンス+ 1年 メンテナンス	ライセンス+ 5年 メンテナンス	サブスクリプション ライセンス 1年	
Advanced	¥100,000 (¥110,000)	¥168,000 (¥184,000)	¥33,600 (¥36,960)	¥100,000 (¥110,000)	¥168,000 (¥184,800)	¥33,600 (¥36,960)	
Advanced for Nutanix	-	-	-	¥100,000 (¥110,000)	¥168,000 (¥184,800)	¥33,600 (¥36,960)	
Premium	-	-	-	¥200,000 (¥220,000)	¥336,000 (¥369,600)	¥67,200 (¥73,920)	
Premium Plus	-	-	-	¥300,000 (¥330,000)	¥500,000 (¥550,000)	¥100,800 (¥110,880)	

	容量単位(1TB単位) ^{※2}			
エディション	サブスクリプション ライセンス 1年	サブスクリプション ライセンス 5年		
Advanced	¥100,000 (¥110,000)	¥500,000 (¥550,000)		
Premium	¥200,000	¥1,000,000		
Edition	(¥220,000)	(¥1,100,000)		
Premium Plus	¥300,000 (¥330,000)	¥1,500,000 (¥1,650,000)		

従来の容量単位ライセンス

(Advanced 1TB 1年メンテ付き ¥615,000~)と比較して、 **たいへんお求めやすくなっています!**

価格表: https://www.arcserve.com/jp/jp-resources/licensing-options/

arcserve[®]

[※]価格は税抜きです。カッコ内は税込み価格です

[※]サブスクリプションにはメンテナンスも付属します



参考:ライセンスプログラムとサブスクリプションの比較

ライセンス プログラム



- ・従来バージョンからある購入方法
- ・永久に利用できるライセンスと、メンテナンス をセットで購入
- ・メンテナンス期間は 1年/3年/4年/5年から選択
- ※メンテナンスには期間中のテクニカル サポートと最新バージョンへの無償アップグレード権が含まれます。

サブスクリプション

- ・ソフトウェアの使用権とメンテナンスがセット
- ・1年または5年間の期間を選択
- ・資産管理や減価償却処理が不要
- ・Microsoft 365 のバックアップはサブスクリプション方式のみ
- ・容量単位ライセンスはサブスクリプションの方が安価





制限事項

Arcserve UDP 8.0 / 8.1 の、RMAN を使用した Oracle バックアップ ([バックアップ: Oracle データベース] タスク) は、2021 年 9 月時点で、日本では非サポートです。 従来の VSS Writer を利用した Oracle バックアップはご利用いただけます。



お問い合わせはこちらから





Arcserve ポータルサイト: **arcserve.com/jp** カタログセンター (カタログ、技術資料)

https://www.arcserve.com/jp/jp-resources/catalog-center/

Arcserve カタログセンター





Arcserve ジャパン ダイレクト (購入前のお問い合わせ)



例:「この構成で必要なライセンスを教えてください」、 「Arcserve UDP はXXXに対応していますか?」、 「XXXはサポートされますか?」

フリーダイヤル: 0120-410-116

(平日9:00~17:30 ※土曜・日曜・祝日・弊社定休日を除きます)

Webフォーム: https://www.arcserve.com/jp/about/contact/call-me/



